

1 計画策定体制

本計画は、庁内の検討会に学識経験者や学校長、PTA 会長らをアドバイザーとして招聘(しょうへい)し、計4回の全体会と1回ずつの分科会を開催し、議論を重ねて策定しました。

1 策定体制

(1)アドバイザー ※ 役職名は令和6年度時点におけるものです。

	分科会		
	学校教育	就学前教育等	不登校等施策
① 横浜国立大学 教職大学院 教授 石塚 等	○		
② 日本体育大学 児童スポーツ教育学部 教授 齊藤 多江子		○	
③ 名古屋市立大学大学院 准教授 米川 和雄			○
④ 綾瀬小学校 校長 近津 勉	○	○	○
⑤ 加賀中学校 校長 難波 浩明	○	○	○
⑥ 足立つくし幼稚園 園長 寺山 早苗		○	
⑦ 親隣館保育園 園長 田中 智和		○	
⑧ 新田わかば保育園 園長 田澤 尚子		○	
⑨ 加平小学校 PTA会長 大久保 孝雄	-		
⑩ 鹿浜菜の花中学校 子どものための保護者と先生の会代表 笠井 健			
⑪ 子ども支援専門部会 特別部会員 田島 のぞみ			

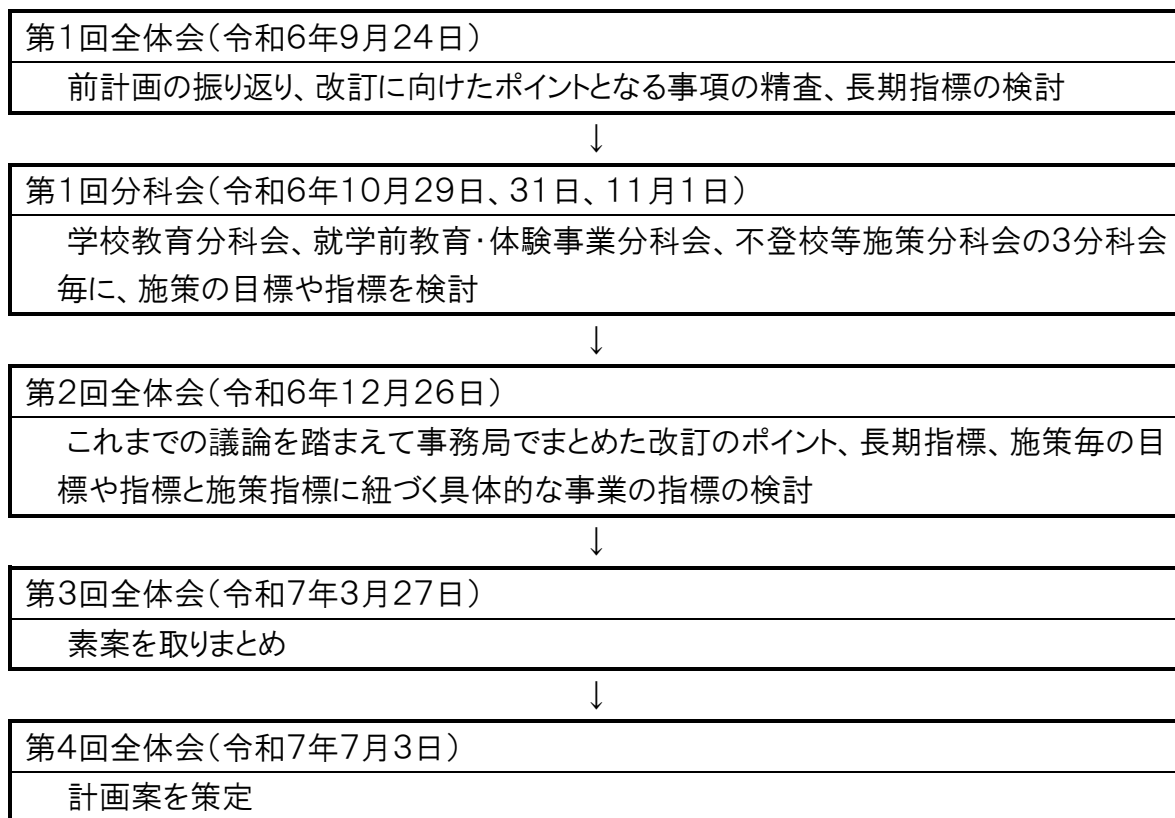
敬称略

(2)検討会

① 教育指導部長(会長)	⑪ 支援管理課長
② 学校運営部長(副会長)	⑫ 教育相談課長
③ 子ども家庭部長(副会長)	⑬ 学校支援課長
④ こども支援センターげんき所長	⑭ 学校施設管理課長
⑤ あだち未来創造室長	⑮ 学校適正配置担当課長 ※1
⑥ 教育政策課長	⑯ 学務課長・おいしい給食担当課長
⑦ 学校 ICT 推進課長	⑰ 青少年課長
⑧ 学力定着推進課長	⑱ 子ども政策課長
⑨ 教育指導課長	⑲ 子ども施設指導・支援課長
⑩ 不登校施策推進担当課長 ※1	⑳ 子どもの貧困対策・若年者支援課長

※1 令和7年度に新設された課であるため、第4回全体会のみ参加

2 策定経過



2 学力調査分析

第2章「前計画の進捗」において、令和6年度「全国学力・学習状況調査」を活用して、今後のさらなる学力向上に向け、授業改善の視点から分析を行いました。

その中で、正答率×主体的・対話的で深い学び(各SES別)について、小学校国語のみ取り上げましたが、資料編では小学校算数、中学校国語・数学についても同様に分析を行いました。いずれも小学校国語と同様に、「主体的・対話的で深い学び」や「振り返り」をしていると肯定的な回答をした児童・生徒の方が、どのSES群にあっても正答率が高いことが分かります。

1 小学校算数

図1 正答率×主体的な学び(授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組み組んでいた)
(%)

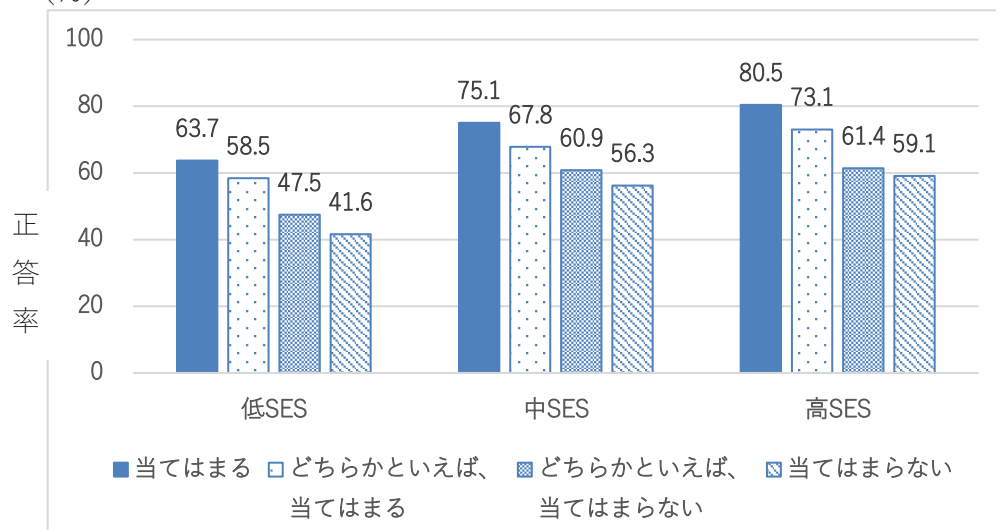


図2 正答率×個別最適な学び(授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた)
(%)

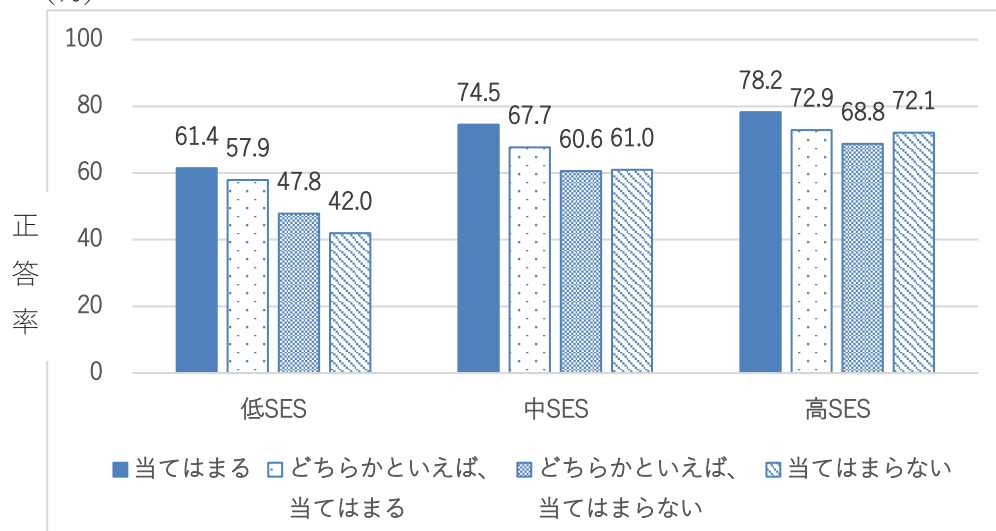


図3 正答率×協働的な学び(学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている)
(%)

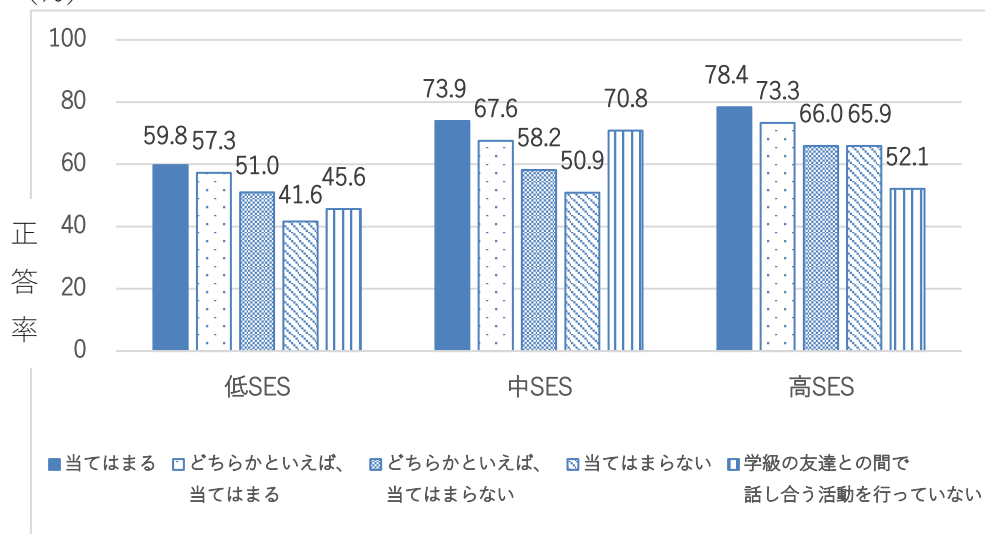
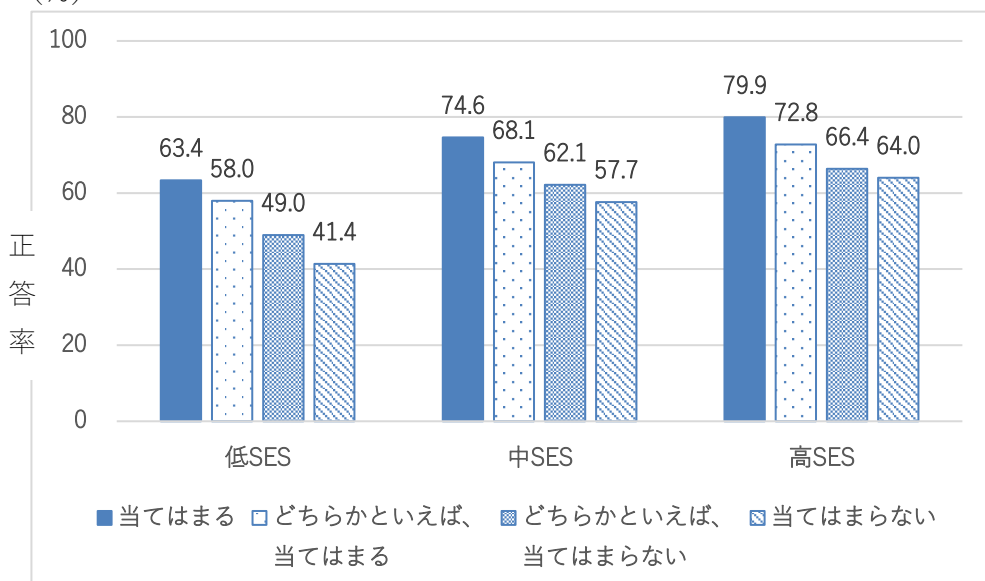


図4 正答率×振り返り(授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた)
(%)



2 中学校国語

図5 正答率×主体的な学び(授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組み組んでいた)

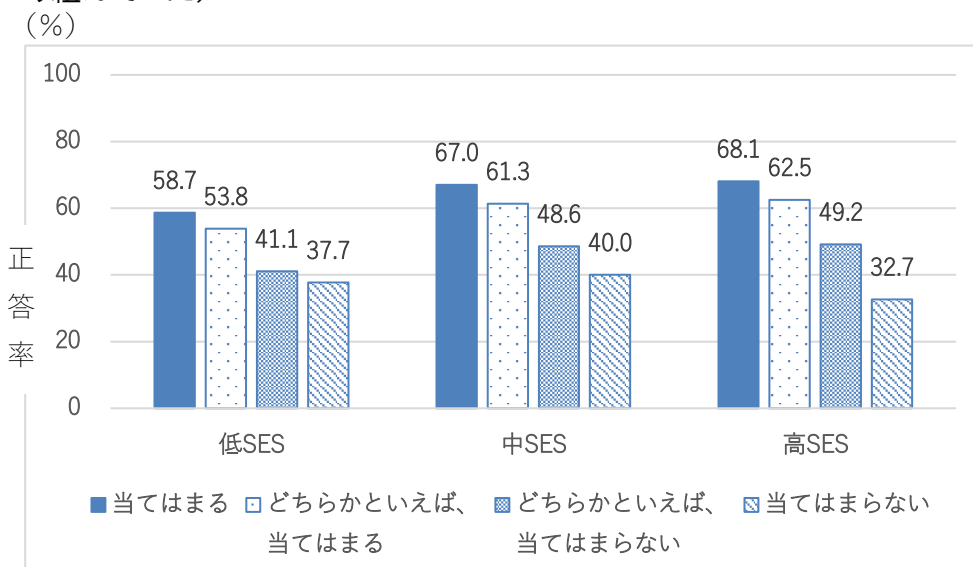


図6 正答率×個別最適な学び(授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた)

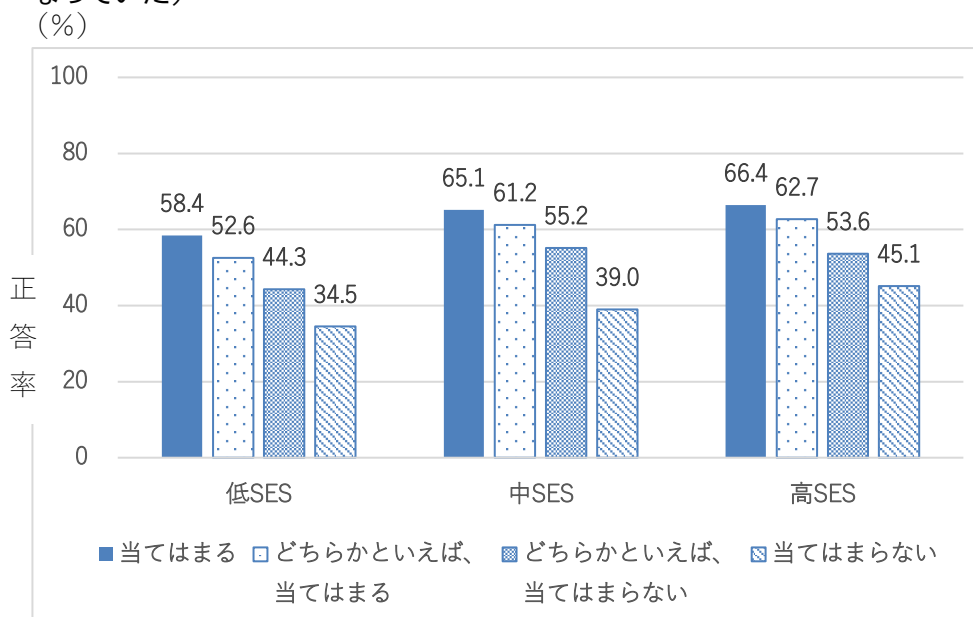


図7 正答率×協働的な学び(学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている)
(%)

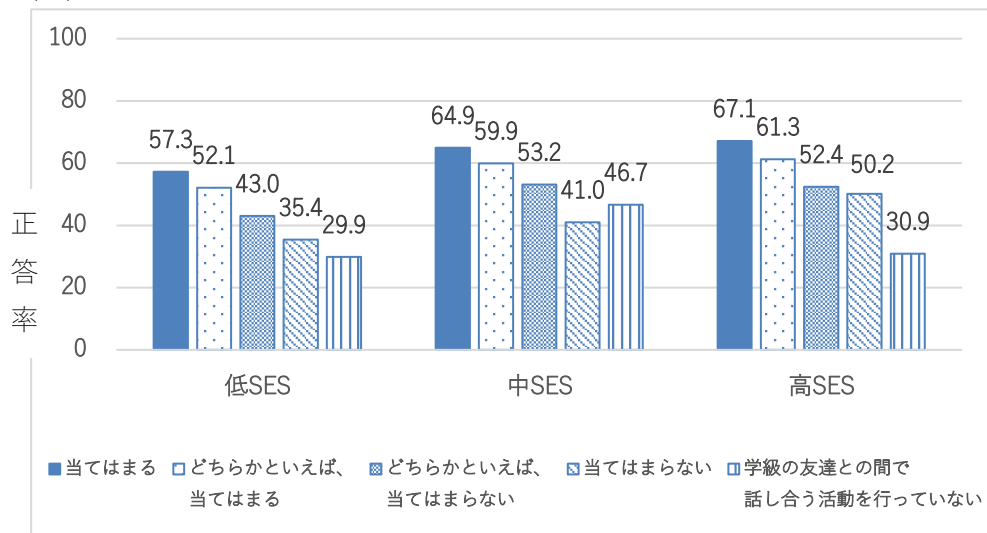
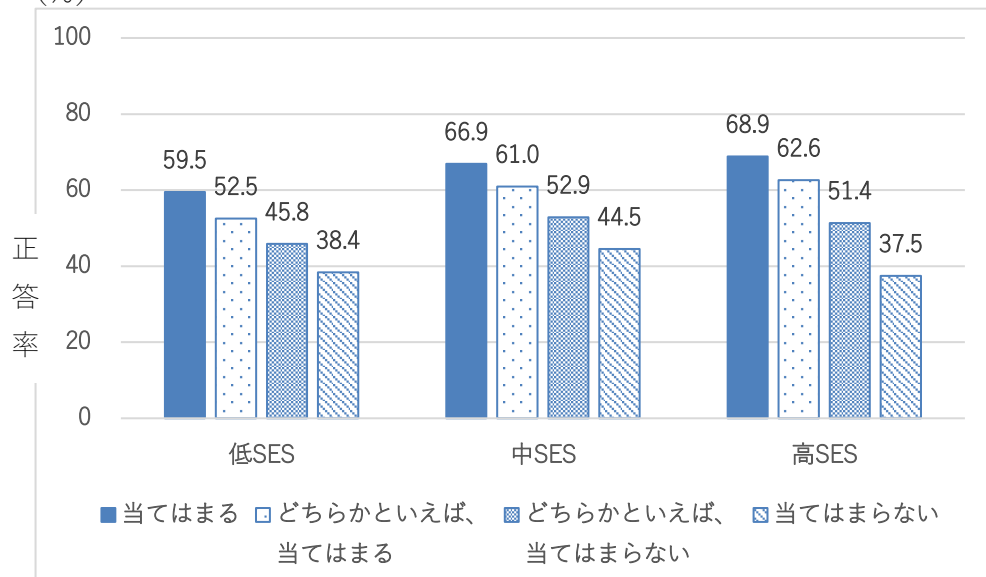


図8 正答率×振り返り(授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた)
(%)



3 中学校数学

図9 正答率×主体的な学び(授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組み組んでいた)
(%)

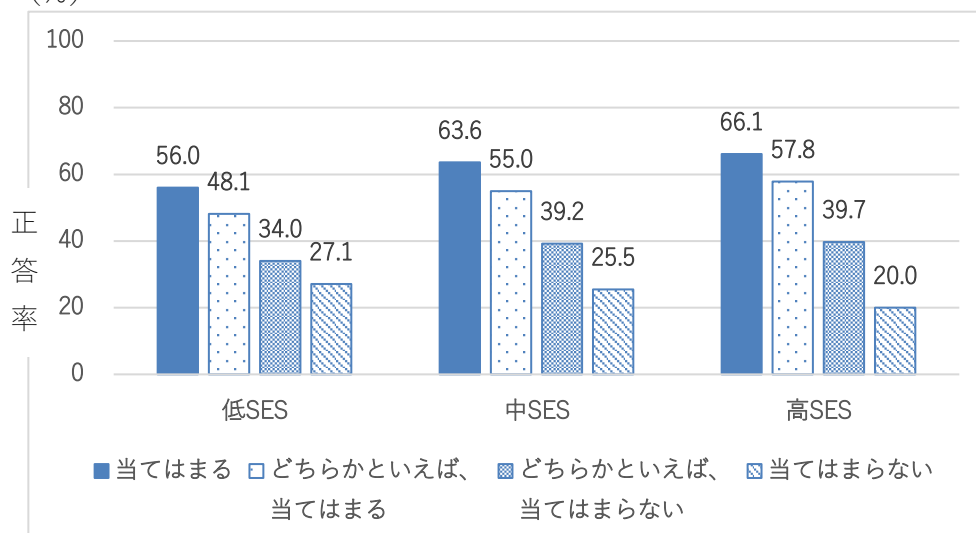


図10 正答率×個別最適な学び(授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた)
(%)

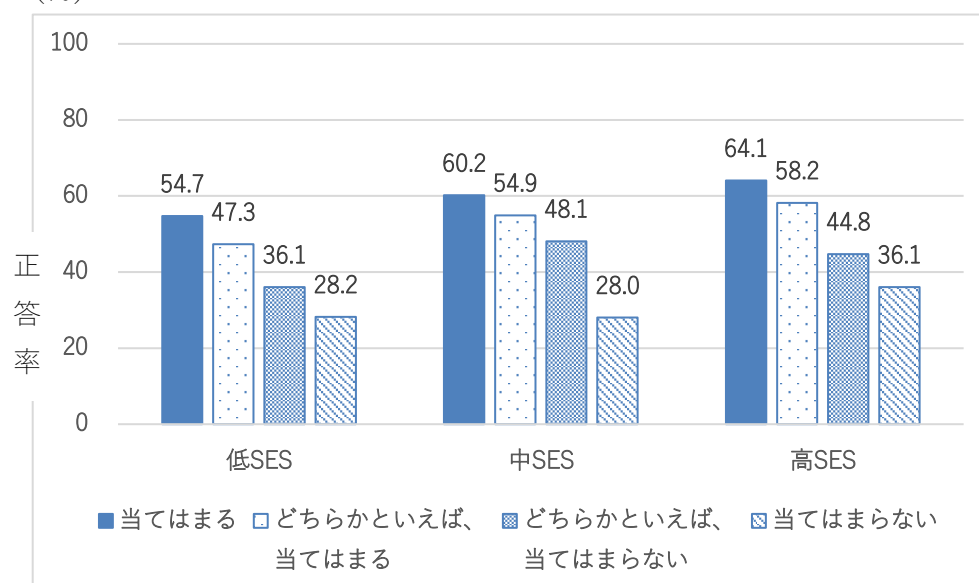


図 11 正答率×協働的な学び(学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる)
(%)

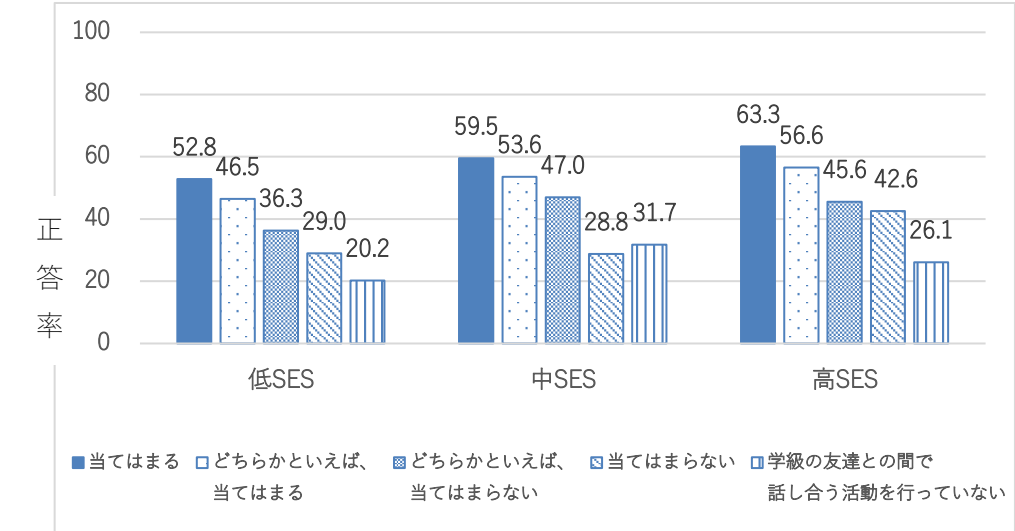
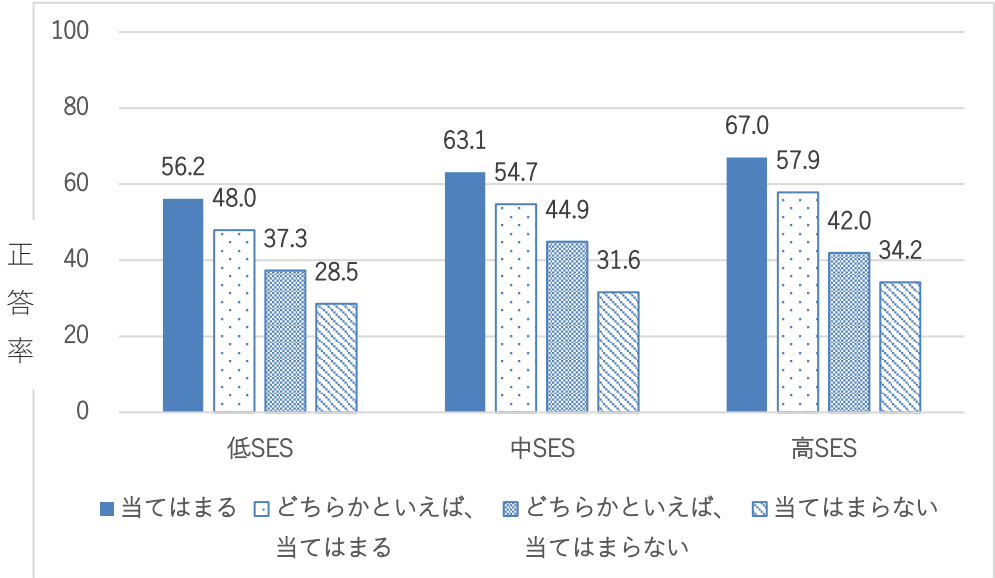


図12 正答率×振り返り(授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた)
(%)



3 指標リスト

柱① 児童・生徒の心身の健全な発達支援

施策① 豊かな心の育成					
施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	「足立区学力定着に関する総合調査」で「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う」に肯定的な回答をした割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う」に「とてもあてはまる、まああてはまる(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 88% (中学生) 82.4%	(小学生) 90% (中学生) 90%	P51
2	「全国学力・学習状況調査」で「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした割合	「全国学力・学習状況調査」で「人の役に立つ人間になりたいと思う」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学6年生・中学3年生の割合	(小学6年生) 95.4% (中学3年生) 93.6%	(小学6年生) 98% (中学3年生) 96%	P51
3	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校のきまりを守っている」に肯定的な回答をした割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校のきまりを守っている」に「はい(小学2・3年生)」「とてもあてはまる、まああてはまる(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 88.9% (中学生) 95.8%	(小学生) 88.9% (中学生) 95.8%	P51
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	教員対象の人権教育研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合	教員対象の人権教育研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	92.3%	100%	P53

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
柱① 児童・生徒の心身の健全な発達支援	2	生命(いのち)の安全教育に関する授業を実施している学校の割合	100%	100%	P53
	3	「全国学力・学習状況調査」で「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」に否定的な回答をした割合 * 低減目標	(小学6年生) 12.9% (中学3年生) 18.3%	(小学6年生) 10% (中学3年生) 15%	P53
	4	「全国学力・学習状況調査」で「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」に否定的な回答をした割合 * 低減目標	(小学6年生) 22.6% (中学3年生) 29.2%	(小学6年生) 20% (中学3年生) 26%	P53
	5	児童会や生徒会が主体になって、人間関係を深める活動や学校のきまりの見直しを図ることを議題とした話し合いを年に1回以上行っている学校の割合	(小学校) 61% (中学校) 60%	(小学校) 100% (中学校) 100%	P53

柱① 児童・生徒の心身の健全な発達支援

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
6	本をほとんど読まない児童・生徒が少ない学校の割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「1か月に、何冊ぐらい本(マンガ、雑誌を除く)を読むか」に「ほとんど読まない」と回答した児童・生徒が小学校は30%未満、中学校は40%未満の学校の割合	(小学校) 43.3% (中学校) 34.3%	(小学校) 50% (中学校) 40%	P53
施策② いじめの早期発見・早期対応					
施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	いじめに関するアンケートで「相談できる人がいない」と回答した小・中学生の割合 * 低減目標	いじめアンケートで「相談できる人がいない」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 0.7% (中学生) 1.6%	(小学生) 0% (中学生) 0%	P59
2	小・中学校におけるいじめの解消率	年度末解消件数／総認知件数(いじめのアンケート調査に基づく)	(小学校) 79.3% (中学校) 82.1%	(小学校) 82% (中学校) 84%	P59
3	「全国学力・学習状況調査」で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に肯定的な回答をした割合	「全国学力・学習状況調査」で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学6年生・中学3年生の割合	(小学6年生) 96.5% (中学3年生) 95.7%	(小学6年生) 100% (中学3年生) 100%	P59

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
柱① 児童・生徒の心身の健全な発達支援	1	いじめの重大事態の調査に関するガイドライン「学校における平時からの備え」を行う学校の割合(東京都教育委員会の調査に基づく)	-	100%	P60
	2	重大事態発生時に、いじめ等問題対策委員会に諮問した学校の割合(いじめ重大事態調査に基づく)	100%	100%	P60
	3	「児童・生徒が相談しやすい環境づくり」を計画的に推進する学校の割合	92%	100%	P60
	4	「いじめに関する研修会」へ参加したまたは校内研修等においていじめに関する研修を行った学校の割合	100%	100%	P60
	5	教科等において、いじめ防止に関する指導を行う学校の割合	100%	100%	P60

柱① 児童・生徒の心身の健全な発達支援

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
6	児童・生徒主体のいじめ予防の取組を実施している学校の割合(児童・生徒主体のいじめ予防の取組の例:いじめ防止集会、いじめ防止スローガンの作成などの啓発活動)	「ふれあい(いじめ防止強化)月間」等で、児童・生徒主体のいじめ予防に関する取組を実施していると回答した学校の割合(児童・生徒主体のいじめ予防の取組に係る調査報告に基づく)	(小学校) - (中学校) -	(小学校) 100% (中学校) 100%	P60
施策③ 健やかな体の育成					
施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	小・中学生の適正体重割合	定期健康診断の結果、適正体重であった小・中学生の割合	(小学生) 87.5% (中学生) 83.8%	(小学生) 89% (中学生) 86%	P69
2	むし歯のある子ども(年長児・小学生・中学生)の割合 *低減目標	あだちっ子歯科健診の結果、むし歯のある就学前児童(年長児)の割合(処置済みを含む)及び歯科健診の結果、むし歯のある小・中学生の割合	(年長児) 21.6% (小学生) 33.1% (中学生) 28.5%	(年長児) 16.2% (小学生) 28% (中学生) 26%	P69
3	貧血・小児生活習慣病予防健診結果における管理不要率	貧血・小児生活習慣病予防健診の結果、「正常」または「管理不要」と判定された中学2年生男女別の割合	(中2男子) 78.2% (中2女子) 72.4%	(中2男子) 80% (中2女子) 80%	P69
4	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き」に肯定的な回答をした割合	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き」に「好き」「やや好き」と回答した小学5年生・中学2年生の割合	(小学5年生) 89.9% (中学2年生) 82.7%	(小学5年生) 91.7% (中学2年生) 84.5%	P69

柱① 児童・生徒の心身の健全な発達支援

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
5	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における体力調査の体力合計点平均値による全国平均値と区平均値との差	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における体力調査の体力合計点平均値による全国平均値と区平均値との差	(小学5年生) -0.19 (中学2年生) -1.08	(小学5年生) +1.00 (中学2年生) +1.00	P69
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	給食後の歯みがき(全年・毎日)を実施する小・中学校の割合	給食後の歯みがき(全年・毎日)を実施している小・中学校の割合(学校保健行動計画書に基づく)	(小学校) 25.4% (中学校) 11.4%	(小学校) 40% (中学校) 20%	P71
2	歯科健診でむし歯があった児童・生徒のうち、医療機関を受診した割合	歯科健診でむし歯があった児童・生徒のうち、医療機関を受診した割合(学校保健行動計画書に基づく)	(小学生) 53.6% (中学生) 30.5%	(小学生) 55% (中学生) 35%	P71
3	年少児クラスから給食後の歯みがき(毎日)に取り組む教育・保育施設の割合	年少児クラスから給食後の歯みがき(毎日)に取り組む教育・保育施設の割合(歯科保健の取り組みアンケート結果に基づく)	37.8%	90%	P71
4	年長児で仕上げみがきをほぼ毎日している保護者の割合	年長児で仕上げみがきをほぼ毎日している保護者の割合(生活・ベジタベアンケート結果に基づく)	80.1%	90%	P71
5	「歯みがき指導」を実施する教育・保育施設の割合	「歯みがき指導」を実施する教育・保育施設の割合(歯科保健の取り組みアンケート結果に基づく)	80.2%	92%	P71

柱① 児童・生徒の心身の健全な発達支援

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
6	貧血・小児生活習慣病予防健診受診率	貧血・小児生活習慣病予防健診の受診率(中学2年生)	(中学2年生) 78.8%	(中学2年生) 80%	P71
7	養護教諭対象の研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合	養護教諭対象の研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	94.6%	100%	P71
8	あだちっ子健康教室のアンケートで「からだによい生活習慣のお話はわかりましたか」に肯定的な回答をした小学生の割合	あだちっ子健康教室のアンケートで「からだによい生活習慣のお話はわかりましたか」に「よくわかった」「まあまあわかった」と回答した小学生の割合	-	100%	P71
9	給食のときに自ら一番はじめに野菜を食べる割合	おいしい給食アンケートで「給食のときに自ら一番はじめに野菜を食べる」と回答した小学6年生・中学2年生の割合	(小学6年生) 62% (中学2年生) 66%	(小学6年生) 70% (中学2年生) 70%	P71
10	ごはん、みそ汁、目玉焼き程度の料理を自分で作ることができる割合 ※ 小学6年生は、ごはん、みそ汁を自分で作ることができる割合	おいしい給食アンケートで「ごはん、みそ汁、目玉焼き程度の料理を自分で作ることができる」と回答した小学6年生・中学2年生の割合	(小学6年生) 52% (中学2年生) 58%	(小学6年生) 90% (中学2年生) 90%	P71
11	「足立区小学生長なわ・短なわチャレンジ」の実施校の割合	「足立区小学生長なわチャレンジ・短なわチャレンジ」のどちらかまたは両方を実施している学校の割合(長なわ・短なわ合計)	92.5%	100%	P71

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
柱① 児童・生徒の心身の健全な発達支援	12	「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で「運動やスポーツをどのくらいしていますか(学校の体育の授業を除く)」に「週1日以上運動している」と回答した割合	「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で「運動やスポーツをどのくらいしていますか」に「ほとんど毎日(週に3日以上)」「ときどき(週に1～2日くらい)」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 85% (中学生) 86%	(小学生) 86.8% (中学生) 87.8% P71
	13	「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で「体育(保健体育)の授業は楽しいと思いますか」に肯定的な回答をした割合	「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」で「体育(保健体育)の授業は楽しいと思いますか」に「思う」「やや思う」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 93.7% (中学生) 87.6%	(小学生) 94.6% (中学生) 88.5% P71

柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組

施策① 教員の授業力向上～学び合いを通じて一人ひとりが思考を深める授業の実現～

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校の授業はどの程度分かるか」に肯定的な回答をした割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校の授業はどの程度分かるか」に「はい(小学2・3年生)」「よくわかる、だいたいわかる(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 87.9% (中学生) 66.5%	(小学生) 90% (中学生) 71.5%	P78
2	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校の授業は楽しい」に肯定的な回答をした割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校の授業は楽しい」に「はい(小学2・3年生)」「とてもあてはまる、まああてはまる(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 86.3% (中学生) 78%	(小学生) 90% (中学生) 83%	P78
3	「全国学力・学習状況調査」で「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」に肯定的な回答をした割合	「全国学力・学習状況調査」で「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学6年生・中学3年生の割合	(小学6年生) 76.2% (中学3年生) 77.3%	(小学6年生) 81% (中学3年生) 82%	P78

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組	4	「全国学力・学習状況調査」で「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」に肯定的な回答をした割合	(小学6年生) 78.9% (中学3年生) 78.1%	(小学6年生) 84% (中学3年生) 83%	P78
	5	「全国学力・学習状況調査」で「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」に肯定的な回答をした割合	(小学6年生) 79.9% (中学3年生) 72.9%	(小学6年生) 85% (中学3年生) 77%	P78

柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	「全国学力・学習状況調査」で「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」に肯定的な回答をした割合	「全国学力・学習状況調査」で「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」に「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	(小学校) 88.1% (中学校) 91.5%	(小学校) 100% (中学校) 100%	P80
2	「全国学力・学習状況調査」で「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した」に肯定的な回答をした割合	「全国学力・学習状況調査」で「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した」に「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	(小学校) 91% (中学校) 91.4%	(小学校) 100% (中学校) 100%	P80
3	児童・生徒が自分で調べる場面において、一人一台端末を週3回以上使用させている学校の割合	児童・生徒が自分で調べる場面において、一人一台端末を週3回以上使用させている学校の割合	(小学校) - (中学校) -	(小学校) 100% (中学校) 100%	P80

柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
4	児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において、一人一台端末を週3回以上使用させている学校の割合	児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において、一人一台端末を週3回以上使用させている学校の割合	(小学校) - (中学校) -	(小学校) 100% (中学校) 100%	P80
5	教育指導課が主催している全研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合	教育指導課主催の全研修会のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	95.6%	100%	P80
6	図書や資料を使って調べ学習等の授業を実施した教員の割合	図書や資料(端末のみは除く)を使って読書以外の授業を小学校は年間15回以上、中学校は年間10回以上実施した教員の割合	(小学校) - (中学校) -	(小学校) 50% (中学校) 20%	P80
7	先進自治体への派遣教員による公開授業における参加教員へのアンケート項目「学校での実践に活用できる」の平均値 ※ 4段階評価	先進自治体への派遣教員による公開授業における参加教員へのアンケート項目「学校での実践に活用できる」の平均値 ※ 4段階評価「4…とてもあてはまる」「3…あてはまる」「2…あまりあてはまらない」「1…あてはまらない」	3.8	3.9	P80

柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
8	「全国学力・学習状況調査」で「前年度までに、近隣等の小学校〔中学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った」に肯定的な回答をした割合	「全国学力・学習状況調査」で「前年度までに、近隣等の小学校〔中学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った」に「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	(小学校) 89.6% (中学校) 100%	(小学校) 100% (中学校) 100%	P80
施策② 個に応じた学習機会の提供					
施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	「足立区学力定着に関する総合調査」で各層の「学校の授業はどの程度分かるか」に肯定的な回答をした割合(小学6年生)	「足立区学力定着に関する総合調査」で「学校の授業はどの程度分かるか」に「よくわかる、だいたいわかる」と回答した小学6年生・中学3年生の割合	(A層)98.4% (B層)93.7% (C層)80.0% (D層)62.1%	(A層)99.0% (B層)97.0% (C層)85.0% (D層)67.0%	P85
2	「足立区学力定着に関する総合調査」で各層の「学校の授業はどの程度分かるか」に肯定的な回答をした割合(中学3年生)		(A層)93.1% (B層)75.5% (C層)48.4% (D層)26.3%	(A層)95.0% (B層)80.5% (C層)53.0% (D層)31.0%	P85

柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
3	「足立区学力定着に関する総合調査」で「勉強は好きだ」に肯定的な回答をした割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「勉強は好きだ」に「はい(小学2・3年生)」「とても好き、まあ好き(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 66.1% (中学生) 34.1%	(小学生) 80% (中学生) 50%	P85
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	年度当初のMIM3rd児童の割合から年度末のMIM3rd児童の割合の減少率	「MIM-PM」の年度当初実績(5月実績)と年度末実績(3月実績)の集計結果	70.4%	75%	P87
2	そだち指導終了時のアンケートで「自分の苦手なところができるようになった」に肯定的な回答をした児童の割合	「そだち指導」における対象児童の卒業アンケートで「自分の苦手なところができるようになった」に「はい」と回答した割合	98.7%	99%	P87
3	英語チャレンジ講座の事後テスト結果が事前テスト結果を上回った生徒の割合	「英語チャレンジ講座」における事前テストと事後テストの集計結果	96.3%	98%	P87
4	中1夏季勉強合宿参加者のうち、事後テストが事前テストの結果を上回った生徒の割合	「中1夏季勉強合宿」における事前テストと事後テストの集計結果	(宿泊型) 91.7% (通所型) 90.7%	(宿泊型) 95% (通所型) 95%	P87

柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
5	足立はばたき塾を受講し、第一志望の高校に進学した生徒の割合	「足立はばたき塾」における塾生の第一志望高校と進学先結果の集計結果	75.9%	80%	P87
6	英語マスター講座修了時点でCEFR A2(実用英語技能検定準2級相当)以上の技能を持つ受講生徒の割合	「英語マスター講座」における事後テスト(4技能)の集計結果	66%	80%	P87
7	「足立区学力定着に関する総合調査」で「算数・数学の勉強でAIドリルを使って、苦手な問題を解けるようになった」に肯定的な回答をした小・中学生の割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「算数・数学の勉強でAIドリルを使って、苦手な問題を解けるようになった」に「とてもあてはまる、まああてはまる(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	69.5%	80%	P87
施策③ 就学前教育の推進					
施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	基本的生活習慣が身についている小学1年生の割合(小学校第1学年アンケート)	新小学1年生が挨拶や返事、姿勢良く座る、静かに話を聞くといった基本的生活習慣を身につけている割合(小学校第1学年アンケートに基づく)	89.8%	90%	P93

柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組	施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
	2	友だちと声をかけ合ったり、関わったりすることができる小学1年生の割合(小学校第1学年アンケート)	新小学1年生が他者との関わり方を身につけている割合(小学校第1学年アンケートに基づく)	-	90%	P93
	3	指導検査実施施設のうち文書指摘を受けた施設の割合 *低減目標	就学前教育・保育施設に対する指導検査を実施した施設のうち、文書指摘を受けた施設数の割合(指導検査実施実績に基づく)	21.7%	10%	P93
	事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
	1	教育・保育力向上研修(集合)の受講者アンケート回答者のうち、「研修内容を、現場で活用していきたい」と回答した職員の割合(保育士、幼稚園教諭等)	教育・保育力向上研修の受講者が「研修内容を、現場で活用していきたい」と回答している割合(教育・保育力向上研修受講者アンケートに基づく)	95.9%	98%	P95
	2	接続期教育研修の受講者のうち、「幼保小連携活動の重要性を理解できた」と回答した職員の割合(保育士、幼稚園・小学校教諭等)	接続期教育研修の受講者が「幼保小連携活動の重要性を理解できた」と回答している割合(接続期教育研修受講者アンケートに基づく)	92.5%	95%	P95
	3	5歳児が在籍する就学前施設のうち、幼保小連携活動の中であだち幼保小接続期カリキュラムを活用している園の割合	幼保小連携活動の中であだち幼保小接続期カリキュラムを活用している園の割合(幼保小連携活動年間実施報告書に基づく)	90.3%	95%	P95

柱② 確かな学力の定着に向けた、就学前からの取組

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
4	小学校との交流活動を実施した教育・保育施設の割合	幼保小連携活動の一環で小学校と交流活動をした園の割合(幼保小連携活動年間実施報告書に基づく)	94%	95%	P95
5	交流研修に参加した小学校教諭のうち、事前に設定した「研修のねらい」を達成できた割合	交流研修に参加した小学校教諭が「研修のねらい」を達成できた割合(達成できた・概ね達成できた) (交流研修報告書に基づく)	94%	98%	P95
6	子ども・子育て支援法に基づく指導検査または巡回訪問等を実施した特定教育・保育施設等の割合(指導検査または巡回訪問等実施の施設数/教育・保育施設等数)	子ども・子育て支援法に基づく指導検査または巡回訪問等を実施した特定教育・保育施設等の割合(指導検査または巡回訪問等実施の施設数に基づく)	100%	100%	P95

柱③ 子どもの状況に応じた学びの充実

施策① 多様な学びの提供と学習の保障					
施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	不登校児童・生徒数(年間 30日以上欠席者) ＊低減目標	小・中学校それぞれの不 登校児童・生徒数(年間 30日以上欠席者)	(小学生) 572人 (中学生) 960人	(小学生) 371人 (中学生) 624人	P101
2	新規の不登校児童・生徒 数 ＊低減目標	小・中学校それぞれの新 規の不登校児童・生徒数	(小学生) 429人 (中学生) 544人	(小学生) 183人 (中学生) 295人	P101
3	不登校出現率 ＊低減目標	不登校児童・生徒数／ 小・中学校の在籍数	(小学生) 1.92% (中学生) 7.08%	(小学生) 0.74% (中学生) 4.33%	P101
4	学校内外のどこにもつな がっていない不登校児童・生 徒数 ＊低減目標	病院、フリースクールなど も含めて学校内外のどこ にもつながっていない不 登校児童・生徒数	(小学生) 18人 (中学生) 26人	(小学生) 0人 (中学生) 0人	P101
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	SSWによる小学校への訪 問回数	各小学校にSSWが訪問し た回数	1校あたり 月2回	1校あたり 月4回	P103
2	カウンセリングを実施する教 育相談員及びSC、家庭環 境等の改善に向けた支援 をするSSWの相談支援によ り、不登校の状況が改善し た児童・生徒の割合	不登校の状況が改善した 児童・生徒数／相談人数	教育相談： 95.1% SC:43.3% SSW:29.6%	教育相談： 96.8% SC:50% SSW:40%	P103
3	登校サポーターの支援によ り、不登校の未然防止の効 果が現れている児童・生徒 の割合	登校サポーターの利用者 のうち不登校の未然防止 が図られてる人数／登校 サポーター利用者数	お迎え支 援:74.4% 別室登校支 援:48.9%	お迎え支 援:80% 別室登校支 援:60%	P103

柱③ 子どもの状況に応じた学びの充実

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
4	SSRを利活用している生徒アンケートにおいて「SSRがあることで以前と比べて学校に登校しやすくなった」に肯定的な回答をした生徒の割合	SSRを利活用している生徒アンケートにおいて「SSRがあることで以前と比べて学校に登校しやすくなった」に「とてもそう思う」「そう思う」と回答した生徒の割合(SSRを4回以上利用した生徒を算出対象とする)	-	90%	P103
5	チャレンジ学級、あすテップ、居場所を兼ねた学習支援(居場所支援)により、不登校の状況が改善した児童・生徒の割合	チャレンジ学級、あすテップ、居場所を兼ねた学習支援の利用により不登校の状況が改善した人数／チャレンジ学級、あすテップ、居場所を兼ねた学習支援利用者数	チャレンジ学級、あすテップ:62.6% 居場所支援:75.8%	チャレンジ学級、あすテップ:65% 居場所支援:80%	P103
6	オンライン事業、家庭学習支援等のアウトリーチ支援により、不登校の状況が改善した児童・生徒の割合	アウトリーチ支援により不登校の状況が改善した人数／アウトリーチ支援利用者数	家庭学習支援事業:41.3% 東京VLP:-	家庭学習支援事業:50% 東京VLP:50%	P103
7	日本語指導によって、日本語の生活言語力・学習言語力に効果が見られ(日本語適応指導講師および日本語指導員の所見による)、あだち日本語学習ルームに通室した生徒が高等学校等に進学した割合	あだち日本語学習ルームに通室した生徒の高等学校等への進学者数／あだち日本語学習ルームに通室した生徒数	85%	90%	P103

柱③ 子どもの状況に応じた学びの充実

施策② 切れ目のない特別支援教育の推進					
施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	相談等を受けた中で発達評価を行った児童の割合	発達評価を行った件数／ 電話・来所等相談件数	55.6%	62%	P109
2	就学支援委員会の判断と保護者の希望が合致した就学先に就学した児童・生徒の割合	就学支援委員会における判断と同じ就学先に就学した児童・生徒数／就学支援委員会における判断件数	96%	100%	P109
3	年度当初に計画した指導計画どおりに指導が行われ、特別支援教室を退室した児童・生徒の割合	退室した児童・生徒数／ 特別支援教室利用児童・生徒数	18.8%	25%	P109
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	発達相談件数	電話・来所等相談件数	1,512件	1,600件	P110
2	4歳の気づきのしくみの実施園の割合	認可保育園・こども園の実施園の割合(区立認定こども園含む)	54.4%	73.4%	P110
3	就学支援委員会の実施回数	就学支援委員会を開催した回数	25回	25回	P110
4	就学支援委員会・通級判定委員会を通して就学した児童・生徒のフォローアップ件数 ＊低減目標	就学支援委員会等を通して就学した児童・生徒のうち、当該年度にフォローアップを行った件数	96件	80件	P110
5	特別支援教育研修のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に肯定的な回答をした割合	特別支援教育研修のアンケートで「研修の内容は学校での実践に活用できる」に「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	98%	100%	P110

柱④ 安全・快適に学べる教育施設の整備と働き方改革の推進

施策① 子どもたちが安全・快適に過ごせる教育環境の整備

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	令和7～14年度の改築・全体保全工事予定校26校のうち、改築・全体保全工事が完了した学校の割合	「足立区学校施設の個別計画」において示した令和7～14年度に工事完了予定の改築予定校6校、全体保全工事予定校20校について、予定通り工事完了した学校の割合	-	100%	P117
2	全小・中学校に占める「適正規模校」の割合	足立区内の公立小・中学校102校について適正規模となる学校の割合	58.8%	59.1%	P117
3	児童・生徒が関係した交通事故の件数	小・中学生の交通事故の件数(事故報告書による)	7件	4件	P117
4	子どもが被害をうけた前兆事案の件数	子どもを対象とした、犯罪等の前兆となる声掛け・つきまとい等の件数(警視庁ホームページ「前兆事案の認知情報」より)	-	50件	P117
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	改築工事実施率	「足立区学校施設の個別計画」において示した令和7～14年度に工事完了予定の改築予定校6校について、予定通り工事完了した学校の割合	-	100%	P119

柱④ 安全・快適に学べる教育施設の整備と働き方改革の推進

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
7	登下校通知メールサービスの利用率	児童が学校の門を通過したことをメールにて保護者に通知するサービス(有料・任意)の加入率	26.1%	35%	P119
8	交通安全教室を実施する小学校の割合	交通安全の意識向上のための取組である、小学校の交通安全教室の実施割合	100%	100%	P119
施策② 教員の働き方改革の推進					
施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	時間外在校時間等が1か月当たり45時間以上の教員の割合(各年10月) * 低減目標	「出退勤システム」の出退勤記録に基づく、時間外在校時間等が1か月当たり45時間以上の教員の割合(各年10月)	(小学校) 43.9% (中学校) 50.3%	(小学校) 0% (中学校) 0%	P125
2	ストレスチェックの総合健康リスクの値が全国平均値(100)を上回った学校の割合 * 低減目標	ストレスチェックの総合健康リスクの値が全国平均値(100)を上回った学校の割合(「教職員ストレスチェック」の結果に基づく)	35.3%	0%	P125
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	教員の業務状況調査により「スクール・サポート・スタッフによる各種業務支援が効果的である」と回答した割合	隔年に実施する「学校の働き方改革の推進に向けた教員の業務状況調査(全教員対象)」から「とても効果を感じている」「やや効果を感じている」と回答した割合	(小学校) - (中学校) -	(小学校) 90% (中学校) 80%	P127

柱④ 安全・快適に学べる教育施設の整備と働き方改革の推進	事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
	2	部活動指導員の充足率 (実員/定数(必要数))	各中学校に配置することができた部活動指導員の 実員／部活動指導員の組織定数	77.8%	90%	P127
	3	FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校の割合	① FAX 相手方の都合に応じる場合を除き、学校⇄事業者、学校⇄教育委員会間においてFAXを利用しないこと ② 押印 法令や規定、規則等の根拠に基づく押印を除き、全ての書類の押印が廃止されていること	(小学校) - (中学校) -	(小学校) 100% (中学校) 100%	P127
	4	生成AIを校務で活用する学校の割合	生成AIを校務で活用している学校の割合	(小学校) - (中学校) -	(小学校) 100% (中学校) 100%	P127

柱⑤ 子ども・若者がたくましく生き抜く力を育むための成長支援

施策① 多様な体験活動の提供とその充実

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	大学生体験教室・ものづくり体験教室や放課後子ども教室体験プログラムに参加してアンケートに回答した小・中学生のうち、「今回の体験をとおして、他のことも学びたい、チャレンジしたいと思った」と回答した割合	大学連携事業の参加者に占める「新しいことを知ったりチャレンジしたい」と回答した小・中学生の割合	80.6%	90%	P133
2	「足立区学力定着に関する総合調査」で「今住んでいる地域の行事に参加しているか」に肯定的な回答をした小学5年生の割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「今住んでいる地域の行事に参加しているか」に「参加している、時々参加している」と回答した小学5年生の割合	47.4%	52%	P133
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	大学連携事業における体験プログラムの参加者数	大学連携事業における体験講座に参加した児童数	11,376人	12,000人	P134
2	放課後子ども教室の体験プログラム延べ参加者数【実施校数】	放課後子ども教室で開催した体験プログラムに参加した児童数(各校からの活動報告書に基づき、足立区生涯学習振興公社で集計)	10,700人 【41校/ 67校】	14,000人 【55校】	P134
3	青少年対策地区委員会が実施する中学生以下の子ども参加事業数	25地区ある青少年対策地区委員会が実施した事業の中で、中学生以下の子どもが参加した事業数	82事業	91事業	P134

柱⑤ 子ども・若者がたくましく生き抜く力を育むための成長支援

施策② 学校・家庭・地域の連携

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	「足立区学力定着に関する総合調査」で「今住んでいる地域に貢献できるような大人になりたい」に肯定的な回答をした小・中学生の割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「今住んでいる地域に貢献できるような大人になりたい」に「とてもあてはまる、まああてはまる(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	66.9%	71.4%	P139
2	「早寝・早起き・朝ごはん」の取組の保護者アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはんを親子で楽しんで取り組めた」と回答した方の割合	早寝・早起き・朝ごはん啓発物を配付した保護者の取組アンケートで「早寝・早起き・朝ごはんを親子で楽しんで取り組めた」と回答した方の割合	-	90%	P139
3	「子育て仲間づくり活動」の保護者アンケートで、「学習活動や交流活動を通して子育ての不安や孤立感の軽減につながった」と回答した方の割合	子育て仲間づくり活動に参加した保護者のアンケートで「学習活動や交流活動を通して子育ての不安や孤立感の軽減につながった」と回答した方の割合	92.8%	95%	P139
4	「足立区学力定着に関する総合調査」で「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校でのできごとについて話をしている」に肯定的な回答をした小・中学生の割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校でのできごとについて話をしている」に「はい(小学2・3年生)」「している、どちらかといえば、している(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	80.8%	85.3%	P139

柱⑤ 子ども・若者がたくましく生き抜く力を育むための成長支援

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	開かれた学校づくり協議会 型コミュニティ・スクールの 設置校数	開かれた学校づくり協議 会型コミュニティ・スクー ルの設置校の総数	13校	21校	P141
2	開かれた学校づくり協議会 による家庭教育活動の実 施回数【参加人数】	全ての開かれた学校づく り協議会において実施さ れた家庭教育活動の総 数【参加人数】	403回 【7,086人】	470回 【17,400人】	P141
3	ジュニアリーダー研修会参 加者数【研修会実施回数】	ジュニアリーダー研修会 参加者数【研修会実施回 数】	402人 【58回】	480人 【67回】	P141
4	「早寝・早起き・朝ごはん」 の取組の保護者アンケート で「早寝・早起き・朝ごはん」 に取り組んだ割合	早寝・早起き・朝ごはん啓 発物を配付した保護者の 取組アンケートで「早寝・ 早起き・朝ごはん」に組み 組めた」と回答した方の割合	-	85%	P141
5	「子育て仲間づくり活動」を 実施した団体数【実施回 数】	子育て仲間づくり活動の 補助金の申請団体数【活 動の実施回数の合計】	13団体 【35回】	30団体 【90回】	P141
6	家庭教育支援講座の参加 者数【開催回数】	家庭教育支援講座への 参加者数【開催回数】	33人 【4回】	120人 【6回】	P141
7	家庭教育支援講座実施後 のアンケートにて「講座内 容を今後の親子のコミュニ ケーションに活かしたいと思 うか」に肯定的な回答をした 割合	家庭教育支援講座実施 後のアンケートで「講座内 容を今後の親子のコミュニ ケーションに活かしたい と思うか」に「とても思っ た」「思った」と回答した割 合	93.9%	95%	P141
8	家族ふれあいの日利用者 数	家族ふれあい事業利用 者数	72,480人	98,000人	P141

施策③ 社会的自立に必要な力の育成・支援

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	「足立区学力定着に関する総合調査」で「自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとしている」に肯定的な回答をした割合	「足立区学力定着に関する総合調査」で「自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとしている」に「はい(小学2・3年生)」「とてもあてはまる、まああてはまる(小学4年生から中学3年生)」と回答した小・中学生の割合	(小学生) 86.2% (中学生) 86.1%	(小学生) 90% (中学生) 90%	P147
2	「全国学力・学習状況調査」で「人の役に立つ人間になりたいと思う」に肯定的な回答をした割合	「全国学力・学習状況調査」で「人の役に立つ人間になりたいと思う」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学6年生・中学3年生の割合	(小学6年生) 95.4% (中学3年生) 93.6%	(小学6年生) 98% (中学3年生) 96%	P147
3	「全国学力・学習状況調査」で「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」に肯定的な回答をした割合	「全国学力・学習状況調査」で「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学6年生・中学3年生の割合	(小学6年生) 73.3% (中学3年生) 60.7%	(小学6年生) 82% (中学3年生) 70%	P147
4	高校生世代の居場所型学習支援の利用者アンケート回答者のうち、「ここでの経験を今後に生かして、困難なことがあっても夢や希望の実現に向かって、チャレンジしてみようと思う」に肯定的な回答をした利用者の割合	高校生世代の居場所型学習支援の利用者アンケートで「ここでの経験を今後に生かして、困難なことがあっても夢や希望の実現に向かって、チャレンジしてみようと思う」に「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合	-	80%	P148

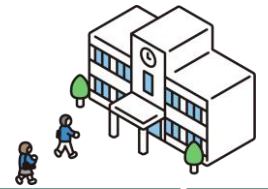
柱⑤ 子ども・若者がたくましく生き抜く力を育むための成長支援

柱⑤ 子ども・若者がたくましく生き抜く力を育むための成長支援

施策指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
5	足立ミライゼミを受講し、難関大学に合格した生徒の割合	当該年度に受験した塾生の内、難関大学に合格した生徒の割合	-	70%	P148
6	給付型奨学金を利用して大学等を正規の修業年限で卒業した奨学生の割合	給付型奨学金の全奨学生のうち、当該年度に卒業見込の奨学生が正規の修業年限で予定通り卒業した割合	100%	100%	P148
事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
1	キャリア教育支援事業の事業参加校の割合	キャリア教育支援事業を実施した学校の割合	(小学校) 94% (中学校) 63%	(小学校) 100% (中学校) 100%	P150
2	キャリア教育研修会の参加校割合	キャリア教育研修会に参加した学校の割合(キャリア教育研修会研修受講報告書に基づく)	100%	100%	P150
3	職場体験を実施している中学校の割合	職場体験を行った学校数(教育課程届に基づく)	100%	100%	P150
4	キャリア教育研修会の受講アンケートで「研修内容は、学校での実践に活用できるものであった」に肯定的な回答をした割合	キャリア教育研修会の受講アンケートで「研修内容は、学校での実践に活用できるものであった」に「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した割合	92.9%	100%	P150
5	租税教室に取り組んでいる中学校の割合	租税教室を行った学校の割合(足立租税教育推進協議会からの活動報告書に基づく)	40%	60%	P150
6	高校生世代の居場所学習支援事業の年間利用登録者の割合	高校生世代の居場所学習支援事業の定員に対する利用につながった人数の割合	52%	90%	P150

事業指標		指標の定義 (算出根拠)	基準年度 (令和5年度)	目標年度 (令和14年度)	頁
柱⑤ 子ども・若者がたくましく生き 抜く力を育むための成長支援	7	足立ミライゼミの全講座 の平均出席率	79.2%	80%	P150
	8	給付型奨学金を給付し た人数	55人	220人	P150

足立区学校図書館利活用推進プラン



目指す児童・生徒像

読みたい！調べたい！
自ら学びを深めるあだちの子

言語能力・情報活用能力の育成

主体的・対話的で深い学びの質的向上

成果指標

指標（最終成果）	R4（実績）	目標
1 か月に読書をしない児童・生徒の割合（区学力調査）	小：28.2％ 中：37.8％	低減 ↘
読書が好きな児童・生徒の割合（国学力調査：小6・中3）	小：68.2％ 中：60.0％	向上 ↗
インターネットや図書等から必要な情報を集めて整理できたと思う児童・生徒の割合	小・中：64％	向上 ↗

学校図書館3つの役割

1 読書活動や読書指導の拠点 読書センター



読書に親しみやすくなる環境の整備

- ① 児童・生徒が利用しやすくするために、オリエンテーションを実施
- ② 図書館に足を運ばせるために、図書だよりやGoogle Classroom等による情報発信や、季節等に合わせた展示やイベントを実施
- ③ 読書傾向・冊数を把握するために、読書ノート・記録を作成
- ④ 読書習慣定着のきっかけとして、朝読書等、隙間時間に読書タイムを設定

学校司書（図書館支援員）の役割

オリエンテーションの実施支援／学校図書館に関する情報発信／イベント・展示の実施／図書委員会運営の補助／図書ボランティアとの連携

活動指標	現状値	目標
【小学校】 一人あたりの年間貸出冊数	45.2冊	向上↗
【中学校】 一人あたりの年間入館数	-	向上↗

2 自発的・主体的な学習活動の支援 学習センター



学校図書館を活用した学習の促進

- ① 図書館資料を活用した授業を実践
- ② 図書館運営に関する共通理解を図るために、管理職・図書館担当教員と学校司書（図書館支援員）による定期的な打合せを実施
- ③ 資料を見つけやすくするために、配架を工夫
- ④ レファレンス等により、児童・生徒や教員の目的に応じた必要な資料を迅速に提供

学校司書（図書館支援員）の役割

配架の整備／レファレンス



活動指標	現状値	目標
図書や資料を使って調べ学習等の授業を実施した教員の割合	-	向上↗
調べる学習コンクールの参加割合	-	向上↗

3 情報の収集・選択・活用能力を育成 情報センター



情報が活用しやすい蔵書構成

- ① 最新の情報を揃えられるように、適切な選書および定期的な廃棄を行う
- ② 正確な蔵書を把握するために、定期的に蔵書点検を実施
- ③ 情報センターとしての機能向上をさせるように、蔵書構成割合の適正化を図る
- ④ 幅広いレファレンスに応えられるように、蔵書の充実を図る
- ⑤ 多種多様な資料を提供するために、公共図書館の配送サービス等を活用

学校司書（図書館支援員）の役割

選書・廃棄／蔵書点検の補助／配送サービスの活用

活動指標	現状値	目標
調べ学習用（0～8類）の蔵書割合の全校平均値 ※標準は小：75％、中：77％	小：46.3％ 中：57.4％	向上↗

学校図書館活用計画・評価シートを作成し、校内で共有したうえで、PDCAサイクルに基づく図書館運営を実施

教育委員会の支援

【小学校】図書館支援員を年間90日（週2日）から年間180日（週4日）配置に拡充（R7完了）／月1回の業務報告会で派遣事業者と各校の状況を確認

【中学校】学校司書を年205日（週5日）配置／好事例の共有等により司書の専門性向上を図るための地区別連絡会を実施、Google Classroomでの疑問点等の解決

【小・中学校】学校図書館担当教員向け及び学校司書向けの研修を各々実施／学校図書館スーパーバイザーによる個別巡回指導／学校図書館活用計画・評価シートの分析およびそれに対する助言／学校図書館活用に関する情報発信／蔵書の充実を図るための予算配付



目指す
児童・生徒像

考える！協働する！表現する！自ら学びを深めるあだちの子

～子どもたちが自ら進んで学習に取り組み、友だちと話し合いながら、より深く理解していく学びの実現を目指します～

学び合いを通じて一人ひとりが思考を深める授業の実現

端末やアプリケーションに関する基本操作の定着により、それらの特徴を把握することで、データの活用・分析による学習進度や個性に合わせた指導、他者との話し合い活動の促進による課題を解決していく力の育成を段階的に進める。

情報活用能力の育成

思考の深まり

2nd STAGE

1st STAGE

3rd STAGE

これから授業スタイル

1st STAGE

まずはICTを使ってみる

● 黒板に紙で貼っていた写真等を児童・生徒の端末にデータで送る。
● 模造紙の代わりにクラウド上で、プレゼンテーション作成用のアプリケーションを活用したプレゼンテーションを行う。
● 配付用紙やノートの代わりにクラウド上で集計用のアプリケーションによる振り返りを行う。
→ ICTを使う習慣をつけて、授業が充実！

2nd STAGE

「ICTならではの」を試す

● 児童・生徒が考えをまとめるにあたり、クラウド上のホワイトボードアプリケーションで他の人の考えも参考にできるようにする。
● 児童・生徒一人ひとりの学習状況をクラウド上で表計算アプリケーションを活用してクラス内に共有することで、クラス全体のボトムアップを図る。
→ ICTを使うことで、授業の幅が広がる！

3rd STAGE

児童・生徒の学びを引き出す

● 児童・生徒一人ひとりが自分の課題を設定し、自分で決めた取り組み方で学びを深めていけるよう、ICTの活用をととして必要な支援を行う。
→ ICTを使うことで、児童・生徒の学びを深める！

主な取組

学校・教員

● 管理職がリーダーシップを発揮することによる学校全体としての活用促進
● GIGA推進校を各校が順番に担当する等による、教員がICTに触れる機会の意図的な創出
● クラウド上のアプリケーションやAIドリル等の活用
● 各校の段階に合わせた他自治体への視察等による活用策のブラッシュアップ
● 各教科の目的に沿ったICT活用の促進

児童・生徒

● 児童・生徒の情報活用能力の育成に向けた機運醸成事業（「あだちICTマスター」「足立タイピングチャレンジ」等）

教育委員会

● 学校・教員の段階に応じた研修会の実施
● ICT支援員の派遣 ● GIGA推進校と連携した実践事例の創出・区全体への横展開

活動指標（KPI）

● 以下の場面における、児童・生徒の週3回以上の端末活用
① 児童・生徒が自分で調べる場面 100%(R8) ② 児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面 80%(R8)
③ 教職員と児童・生徒がやりとりする場面 80%(R8) ④ 児童・生徒同士がやりとりする場面 80%(R8)
⑤ 児童・生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面 80%(R8)

成果指標（「全国学力・学習状況調査」に基づく）	基準値(R5)	目標値(R8)
「小学5年生まで／中学1・2年生のときに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に肯定的な回答をした割合	小76.2% 中77.3%	小77.8% 中78.9%
「学級の友達／生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的な回答をした割合	小78.9% 中78.1%	小80.6% 中79.7%
「小学5年生まで／中学1・2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」に肯定的な回答をした割合	小79.9% 中72.2%	小81.6% 中73.8%

新時代の学びを支える環境づくり

端末の配備やネットワーク環境の構築等をととして、場所を選ばない学びの環境を維持する。

主な取組

● 教員、児童・生徒への一人一台端末の配備 ● ネットワーク環境の構築
● 児童・生徒の学習状況等を可視化できる環境の構築 ● 授業支援ソフト等の配備

活動指標（KPI）

● 端末利用に係る学校の回線速度の計測・把握 100%(R6)
● 十分なネットワーク速度の確保 100%(R7) ● 課題のある学校へのアセスメントの実施 100%(R7)
● 一人一台端末の常時活用を可能とするための十分な予備機の整備 100%(R10)

校務DXによる教員の働き方改革

スムーズな情報共有などによる授業準備や事務作業の効率化をととして、教員と児童・生徒が向き合う時間を確保する。

主な取組

● クラウド上のアプリケーションや外部システムを活用したスムーズな情報共有
● 生成AIによる授業準備や事務作業の効率化

活動指標（KPI）

● FAX・押印の原則廃止 100%(R7) ● 不合理な手入力作業の一掃 100%(R7) ● 生成AIの校務での活用 50%(R7)
● クラウド環境を活用した校務DXの徹底 100%(R8) ● 次世代の校務システムの導入に向けた検討の実施 100%(R8)

一人一台端末による学びの保障

不登校や教育相談希望の児童・生徒、学習活動等の支援が必要な外国籍の児童・生徒、障がいのある児童・生徒、病気療養児等の特別な支援を要する児童・生徒のうち、希望するすべての児童・生徒が必要な支援を受けられるようにする。

主な取組

● オンライン会議用のアプリケーションを活用した授業配信・教育相談
● オンライン上の翻訳アプリケーションを活用した多言語対応

活動指標（KPI）

● 希望する不登校児童・生徒への授業配信 100%(R8)
● 希望する児童・生徒への端末を活用した教育相談 100%(R8)
● 外国人児童・生徒に対する端末を活用した学習活動等の支援 100%(R8)
● 障がいのある児童・生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童・生徒の実態等に応じたICTを活用した支援 100%(R8)

※ 活動指標（KPI）については、「子供たちと教師の力を最大限に引き出すためのデジタルを活用した 教育の充実」より一部抜粋。各指標の（ ）内は目標年度。

足立区「使える英語力」育成グランドデザイン

※ 令和7年度時点のものを掲載



1 目指す児童・生徒像

2 児童・生徒の英語力の目標

活動指標		中学3年生
令和5年度 全国学力・ 学習状況調査 意識調査 言語活動	1, 2年生の時に受けた授業で、原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動をしている。	75%以上 【区】72.3【都】67.7【国】63.8
	1, 2年生の時に受けた授業で、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動をしている。	85%以上 【区】82.9【都】81.6【国】79.3

成果指標		小学6年生	中学3年生
CEFR	A1レベル相当	－	60%以上 【区】50.6【都】60.7【国】50.0
学力調査	区	通過率	－
		意識調査「相手に伝わる英語で話す」	※ 中学1年生時に小学生時の成果として測る。 65%以上 【区】60.5【都】－【全】61.6
	国	平均正答率	－
		意識調査「英語が好き」	70%以上 【区】65.2【都】65.8【国】69.3

3 英語を使ってできること（CAN－DOリスト形式による学習到達目標）

※太字は目標値 CEFRはR5、区調査はR6、国調査はR5の確定値 【全】は、区調査を委託している事業者が取り扱っている全自治体分の平均値

		小学4年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	都立入試等で求められる 英語力の目安
CEFR		PreA1		PreA1(英検5級)	PreA1(英検4級)	A1(英検3級)	
聞くこと	① 簡単な語句や基本的な表現で、ゆっくりはつきりと話される英語を聞いて、おおよその内容を分かるようにする。 ② アルファベットの文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるか分かるようにする。	身近で簡単な事柄について、ゆっくりはつきりと話される英語を聞いて、おおよその内容や具体的な情報を聞き取ることができる。		日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。（80語程度）	日常的な話題や社会的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。（100語程度）	社会的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。（120語程度）	自然な口調で話される 100語程度 の会話文や 120語程度 のスピーチを聞いて、その具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができる。
読むこと		① アルファベットの大文字と小文字を識別したり、文字の読み方を発音したりすることができる。 ② 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現で書かれ視覚的情報が添えられた英語を読み、大まかな内容や具体的な情報を捉えることができる。		題材 日常的な話題について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。（100語程度）	日常的な話題や社会的な話題について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。（150語程度）	社会的な話題について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。（300～700語程度）	まとまりのある 700語程度 の対話文や物語文を読み、概要や要点、必要な情報を捉えることができる。
話すこと	やり取り	自分の好みや欲しいものなどについて、慣れ親しんだ語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うようにする。	できることやできないこと、学校生活などについて簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり答えたりして会話を続け、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。	① 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。 ② 好きな有名人やテレビ番組などについて、質問したり答えたりして会話を続け、自分の考えや気持ちなどを理由とともに伝え合うことができる。	② お勧めの場所や休日の計画などについて、質問したり答えたりして会話を続け、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに伝え合うことができる。	② 日本の文化や郷土、世界の現状などについて、質問したり答えたりして会話を続け、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに述べ合うことができる。	与えられた情報を基に質問に答えたり、自分の考えなどを述べたり、自分から質問したりすることができる。（10秒以内）
	発表	自分のことや校内の好きな場所などについて、イラストや写真などを見せながら、慣れ親しんだ語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを発表するようにする。	夏休みの思い出や将来の夢などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、伝える内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを発表することができる。	① 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で発表することができる。 ② 自分の友達や家族、学校生活などについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	② 自分が体験した出来事や関心のあるイベントなどについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	② 将来の目標や日本と世界の現状などについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	イラストが示す内容 や、聞いたり読んだりした内容を基に、自分の意見とその理由などについて話すことができる。（40秒以内）
書くこと			① アルファベットの大文字と小文字を正しく書き分けることができる。 ② 夏休みの思い出や行きたい国、将来の夢などについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を用いて、例文を参考に自分の考えや気持ちなどを書くことができる。	友達のスピーチを聞いたり、図や表が添えられたメールやブログなどを読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。（10文・50語程度）	プレゼンテーションを聞いたり、メールを読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。（15文・80語程度）	スピーチを聞いたり、掲示物や新聞記事を読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。（20文・100語程度）	① 聞き取った事柄について英語で書くことができる。 ② 読み取った内容について自分の考えなどを理由とともに3文の英語で書くことができる。

4 目標達成に向けた主な取組

【使用教科書に合わせて場面や状況を設定】

取組項目	対象	概要	小学校	中学校
授業力の向上	教員	✔ 言語活動を通して英語4技能をバランスよく育成 ✔ 目的や場面、状況等を明確にした言語活動の設定 ✔ 聞く・話す活動を踏まえた読む・書く活動の設定 ✔ 児童・生徒が英語を使える達成感のある授業実践	研修「小中合同外国語活動・外国語科研修 / 小学校外国語活動・外国語科研修」 教科指導専門員（小・中） / 英語教育推進員（小・中） 小学校英語専科教員連絡会（小） / 明海大学連携授業研究会（小・中） / 各種委員会による研究実践	（仮称）英語教育推進校（中）
			外国語指導助手（ALT）（小・中）	
学習機会の提供	児童・生徒	✔ 児童・生徒一人ひとりの個に応じた学習教材提供 ✔ 異文化理解の場面や自然な英語使用の場면을創出 ✔ 外部人材との交流を通して、使える英語力を実感 ✔ 学習意欲喚起・学習成果を実感する検定受験勧奨	デジタル教材の提供「学習者用デジタル教科書・AIドリル」 / 都「Welcome to Tokyo」（小・中） / 「ESAT-J」・英検対策問題（中） 都「イングリッシュ キャラバン・ウィーク」（小） 明海大学連携「あけみ英語村」（小）	実用英語技能検定受験支援事業（中） 英語チャレンジ講座（1年） / 英語マスター講座（1年～3年） 明海大学連携「留学生交流事業」（中）
			国・都 英語施策の活用「国際交流コンシェルジュ」 / 「TOKYO GLOBAL GATEWAY（小・中）」	

第2期足立区教育振興ビジョン

令和7年8月発行

発 行 足立区教育委員会

編 集 足立区教育委員会 教育指導部 教育政策課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5962

印 刷 株式会社丸庄

東京都足立区千住4-16-12

※本ビジョンの表紙の『夢』の文字は、区内在住・在学の児童・生徒（小・中・高・特別支援学校）から公募を行い、平成27年度作成の足立区教育大綱のパンフレットの表紙に採用されたものです。

